

## 日本での交換留学

東海大学

シュ ユイ ジェン

知らず知らずのうちに、日本での交換留学生活も終わりを迎えようとしています。振り返ってみると、飛行機に乗る前の私は、不安や迷いでいっぱいでした。卒業を間近に控えた時期に交換留学を選んだことは、本当に正しい選択だったのだろうかと悩んでいました。

言語能力が十分ではないことや、慣れない環境で生活することへの不安もありました。しかし、時間が経つにつれて、この留学経験は少しずつ私の考え方を変えてくれました。今振り返ると、大変貴重な機会に恵まれたと感じています。また、そのおかげで、世界各地から来た友達たちと出会うことができました。

留学期間中は、日常生活の中で会話力を伸ばすことを意識しながら、自分の興味のある授業を履修しました。中でも、竹村先生の「日本語音声表現論」では、日本語の歴史や方言、発音の規則などを学び、日本語を改めて多角的に捉えることができました。また、小林先生の「日本語演習ⅡB」では、『源氏物語』を題材に、文章の内容を読むだけでなく、ゲームや音楽、香りなどを通して作品の世界観を体験しました。このような授業を通して、日本語や日本文学への

理解がより深まったと感じています。そのほかにも、留学生向けに花道や茶道、和菓子作り、香道、着物体験などの文化体験クラスが開かれており、実際に体験することで、日本文化特有の繊細さや雰囲気を感じることができました。

授業以外の時間には、友人たちと一緒に食事に出かけたり、展覧会を見に行ったり、神社を参拝したりして過ごしました。秋学期に来日したため、東京で人生初の初雪を見ることができ、日本で新年を迎えるという貴重な経験もしました。紅白歌合戦を見ながら年越しそばを食べ、年明けには神社へ初詣に行きました。



この留学生活の中で、多くの「初めて」を経験し、実際の日本の生活をすることができました。その過程で、文化の違いに戸惑うこともありました。例えば、「日本人は約束の時間より十分早く来る」という考えは、これまで授業の中でよく強調されてきたことでしたが、実際に生活してみると、必ずしもすべての人に当てはまるわけではないと感じました。このような経験を通して、自分自身が持っていた日本に対する固定観念に気づくことができました。これらは、短期間の旅行では得られない学びだったと思います。

不安を感じながらも、私はこの留学に挑戦し、自分なりに一歩踏み出しました。この経験は、語学力や学習面での成長だけでなく、これからの進路や将来

について考える貴重な時間にもなりました。今、留学を迷っている人がいるならば、ぜひ自分を信じて一歩踏み出してほしいと思います。

最後に、授業面でご指導いただいた竹村先生、そして生活面で支えてくださったチューターのリュウキ先輩に心より感謝申し上げます。また、困ったときにいつも親身に対応してくださった御茶水女子大学の教職員の皆様にも感謝しています。私にとって、御茶水女子大学での交換留学は、非常に貴重で忘れられない思い出となりました。

